

駅ホームにおける転落防止対策

～「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」中間とりまとめ（平成28年12月）のフォローアップ概要～

駅ホームにおける転落防止対策は、「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」中間とりまとめ（平成28年12月）に基づき、ハード・ソフト一体的に進めている。

フォローアップのポイント

[平成29年7月第7回検討会開催時点]

平成32年度までに、駅全体で882駅のホームドア整備が完了、交通政策基本計画の目標800駅を前倒し達成見込み

特に、利用者10万人/日以上駅のうち、整備条件を満たす全駅でホームドアを整備
平成30年度までに、利用者1万人/日以上駅で、内方線付き点状ブロックの整備が概ね完了
視覚障害者が参画した研修、旅客を対象とした声かけキャンペーンなどソフト対策の取組が拡大

「中間とりまとめ」における転落防止対策

【ホームドア整備】

転落事故の約半数を占める利用者10万人/日以上駅を優先的に整備

ア) 車両の扉位置が一定など整備条件を満たしている場合、原則として平成32年度までに整備

イ) 整備条件を満たしていない場合、新型ホームドアや車両更新を検討

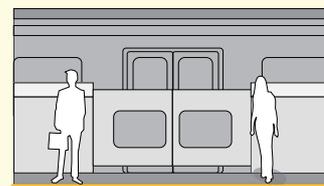
新型ホームドアにより対応する場合、概ね5年を目途に整備又は整備着手

車両更新により対応する場合、更新後速やかに整備

扉位置不一致等の解消困難な場合等、駅員等による誘導案内等のソフト対策を重点実施

利用者10万人/日未満の駅は、駅の状況等を勘案して整備

〔従来型ホームドア〕



【新型ホームドアの普及促進】

従来型の導入の課題（扉位置の不一致等）を解消する新型ホームドア（昇降ロープ式等）の普及を、利用者への声に配慮しつつ、積極的に促進

こうした取組により、交通政策基本計画（平成27年2月閣議決定）において、平成32年度に約800駅としている整備目標について、できる限りの前倒しを図る



〔昇降ロープ式ホーム柵〕



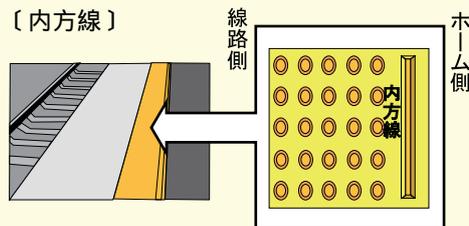
〔大開口ホーム柵〕



〔スマートホームドア®〕

【内方線付き点状ブロックの整備促進】

転落事故の約9割を占める利用者1万人/日以上駅を平成30年度までに整備



第7回「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」（平成29年7月25日）にてフォローアップを実施。

【ソフト面の対策】

駅員等による誘導案内の強化と接客能力の向上
 旅客による声かけ、誘導案内の促進 等

転落防止対策の取組状況

【ホームドア】

鉄道駅全体（686駅を整備済み（平成28年度末））

平成32年度までに196駅を整備

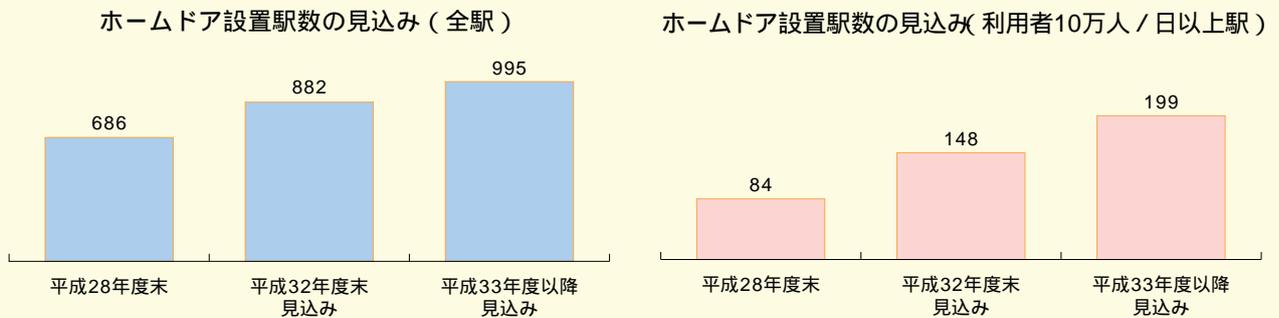
882駅が整備済みとなり、交通政策基本計画の目標（約800駅）を前倒し達成の見込み

利用者10万人/日以上駅（260駅のうち整備済みの84駅（平成28年度末）を除く176駅が対象）

平成32年度までに、整備条件を満たしている全46駅を整備

加えて、新型ホームドアや車両更新による扉位置の統一により、18駅を整備

平成33年度以降、新型ホームドアや車両更新の進展、駅改良にあわせた整備によりさらに51駅を整備（整備済合計199駅）



【内方線付き点状ブロック】

平成30年度までに、利用者1万人/日以上駅において、ホームドア整備（又は予定）駅を除く394駅のうち391駅を整備（概ね整備完了見込み）

【ソフト面の対策】

視覚障害者が参画した研修等を実施する取組が倍増

国主催の声かけ・見守りキャンペーンに加え、鉄道事業者等も独自にキャンペーンを実施

駅に於ける盲導犬の育成や訓練への協力が大幅増

（鉄道事業者の取組事例）



接客コンテストにおける、障害者への案内に関するロールプレイング（東急）



障害者団体との協力によるセミナー（西武）



大学とタイアップした介助を必要とする方へのボランティア活動（東京メトロ）

注 国土交通省資料による。